

平成30年度に実施した子ども条例に基づく施策の実施状況一覧

(1) 子どもの権利について学ぶ機会の提供等

取組名	取組概要	対象	担当課
「三重県子ども条例」推進・啓発等の実施	「三重県子ども条例」に基づく取組に、県民の方がより一層理解を深め、子どもの育ちへの支援を学んでいただけるように出前トークを実施した。 また、「子育て応援！わくわくフェスタ」などの子どもの育ちや子育て家庭を応援するイベントなど様々な機会を捉えて啓発活動を行ったほか、平成31年3月17日には三重県人権センターにおいて、「可能性を広げるための子どもへの関わり方」や「幼少期からの数学的思考センス（イメージする力）を育むために大切にしなければならないこと」などをテーマとした「三重県子ども条例講演会」を開催した。 (参加者数120名)	子ども、 大人	子ども・福祉部 少子化対策課
県庁見学	広く県民に対して県庁見学の機会を設け、県庁内の執務スペースや、県政の取組状況、議事堂本会議場また県庁屋上からの伊勢湾や津市の街並み等を実際に見学することで、県庁・県政への関心・理解・親近感を深める機会とした。 (受入件数：66団体、3,594人)	子ども、 大人	戦略企画部 広聴広報課
移動人権啓発事業	商業施設や地域のイベント等、様々な場や機会を利用してパネル展示、アンケート、啓発物品の配布等を実施し人権尊重の思想を県民に広めた。 (実施回数：11回、アンケート協力者数：936人)	子ども、 大人	環境生活部 人権センター
非行防止・薬物乱用防止教室	少年の規範意識を向上させるため、保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校等を訪問し、非行防止教室や薬物乱用防止教室を開催した。(平成30年度、実施回数：延べ521回、参加者数：延べ53,617人)	幼児～高校生、 大学生、 専門学校生、 保護者および 教員	警察本部 少年課
三重県立図書館 児童コーナー、 ティーンズコーナー	児童・中高生向き図書や児童研究用の図書を揃え、閲覧、貸出、参考調査サービスの提供を行った。また子どもや大人が求めている図書を選定し、揃えるとともに、各サービスの向上を図った。 ・児童等向け図書、雑誌購入(2,049冊) ・児童等向け図書、雑誌貸出冊数(個人貸出)(127,108冊)	子ども、 大人	環境生活部 図書館
博物館教室や フィールドワーク、 アウトリーチ活動等	三重の自然と歴史・文化について多くの県民のみなさんに興味・関心をもっていただくきっかけづくりを目的とした教育普及活動を、県内各地のフィールドで実施した。 主な事業の参加者数 ・オオサンショウウオ「さんちゃん」のお食事会 (5～3月奇数月の第2土曜、参加者数：702人) ・週末ワークショップ(年間12回 参加者数：1,100人) ・同定会(8月19日、参加者数：67人) ・館長と調べる三葉虫のひみつ(年3回 参加者数：53人) ・紀北町移動展示(2月23日～2月24日 参加者数：305人)	子ども、 大人	環境生活部 総合博物館
「命の大切さを学ぶ教室」の開催	次代を担う中学生、高校生及び大学生に対し、犯罪被害者等の講師が、犯罪被害者等が受けたさまざまな痛み、家族の絆、命の大切さ、被害者も加害者も出さない社会を希求する思い等について語りかけ、受講した生徒が犯罪被害者等の悲痛な思いや置かれている現状に対する理解を深め、社会全体で犯罪被害者等を支える気運の醸成を図るとともに、自分や他人の命を大切にす意識、犯罪を犯してはならないという規範意識の向上を図ることを目的として開催した。 (開催回数：12回、受講者数：約5,100人) (うち、中高校生：約4,600人)	中学生、 高校生および 大学生	警察本部 広聴広報課

取組名	取組概要	対象	担当課
青少年消費生活講座	一人ひとりが消費生活についての正しい知識を持ち、自ら判断し、行動する「自立した消費者」となるため、契約の知識や消費者トラブルの実態等を講義することにより、消費者トラブルを未然に防止することを目的に実施した。 (実施数：学校数13校、受講者数：1,927人)	高校生～ 大学生	環境生活部 くらし・交通安全課
交通安全県民力向上事業	交通ルールを遵守し、交通マナーを向上させ、子どもを中心とする交通弱者の交通安全に対する県民力を高めることにより交通事故抑止を図ることを目的に、「交通安全アドバイザー」を保育園、小学校等に派遣する出前方式の参加・体験・実践型の交通安全教育を推進した。 (平成30年度、幼児：3,176人、小学生：3,977人、保護者：571人、高齢者：1,223人、その他：221人)	幼児・小学生 大人（保護者、高齢者）	警察本部 交通企画課

(2) 子どもが意見表明する機会の設定等

取組名	取組概要	対象	担当課
三重県子ども条例に基づく調査の実施	子どもの生活に関する意識や実態等を把握し、県が行う施策推進の参考とするため、三重県子ども条例に基づく調査を実施し、その結果を中心に掲載した「みえの子ども白書2019」を発行した。	小学5年生、中学2年生、高校2年生、小学生と中学生の保護者、県民	子ども・福祉部 少子化対策課
キッズ・モニターアンケートの実施	県の施策に子どもの意見や状況を取り入れるため、子どもを対象にインターネットを用いた電子アンケートに回答していただく「キッズ・モニター」を実施した。(実施回数：6回) (テーマ) ①ユニバーサルデザインについて(子ども・福祉部) ②こどもほっとダイヤルについて(子ども・福祉部) ③看護師の仕事について(医療保健部) ④お米を食べることについて(農林水産部) ⑤今の幸せと愛情および家庭の日について(子ども・福祉部) ⑥手話について(子ども・福祉部)	小学4年生～高校生	子ども・福祉部 子ども・福祉総務課
ありがとうの一行詩コンクールの実施	温かい気持ちのやりとりのなかで、子どもが安心して自分らしく育つことを期待して、「ありがとう」をテーマにした一行詩を募集し、100作品を表彰した。このうち、最優秀作品賞について、3月17日に三重県人権センターで表彰式を行った。(応募作品数：15,473作品)	子ども、大人	子ども・福祉部 少子化対策課
明るい選挙啓発ポスターコンクール	選挙が明るく正しく行われるよう啓発用のポスターを募集し、県審査特選作品については中央審査(主催は(公財)明るい選挙推進協会、都道府県選挙管理委員会連合会等で文部科学省、都道府県教育委員会の後援)へ出品した。 (参加校数：県内15市町124校、参加者数：1,680人)	小学生～高校生	選挙管理委員会
統計グラフ三重県コンクール	小・中学生を中心に県内から統計グラフを募集し、作品の制作を通じ統計に対する関心を深めるとともに、統計の表現技術の向上に役立てることを目的として実施した。また、参加者全員に参加賞、優秀作品には知事賞等の授与を行った。 (実施期間：6月～9月、参加者数：228人)	子ども(小・中・高校生等)、大人	戦略企画部 統計課
みえの地物が一番!朝食メニューコンクール	小学生(5・6年生)および中学生を対象に、子どもたち自身が地場産物を使用した朝食メニューを考え、調理するコンクールを実施した。この取組を通して、子どもたちが自らの食生活に関心を持ち、望ましい食習慣を身に付けるとともに、地場産物や生産者についての理解を深めた。 (応募総数：小学生の部 1,237作品、中学生の部 4,222作品、最優秀賞各部1作品、優秀賞各部4作品)	小中学校・特別支援学校の児童生徒	教育委員会事務局 保健体育課
人権メッセージ募集	県民が、差別をなくすために真剣に取り組み、県民一人ひとりが、人権啓発の主体者であることの意識付けに繋がるよう人権メッセージを募集した。(応募件数：3,018件)	子ども、大人	環境生活部 人権センター
人権ポスター募集	県内の小中高等学校等の児童・生徒が人権について考え、表現する機会としてポスターを募集した。優秀作品により人権カレンダーの作成や巡回展示による啓発を行った。 (取組数：146校 応募数：23,931人)	子ども(小・中・高校生等)	環境生活部 人権センター
人権フォトコンテスト	「自分らしく生きる」「共に生きる姿」「命の大切さ」をテーマに生活の様々な場面における「人権」を感性で捉えたコンテストを開催した。募集・応募・優秀作品の展示の過程を通じて人権尊重を広く県民に啓発した。 (応募件数：255件)	子ども、大人	環境生活部 人権センター
三重県高等学校科学オリンピック大会	高校生が学校ごとのチームで、授業での学習をベースに生活に関連した課題に取り組むことにより、数学・理科・情報や科学技術に対する興味や関心を喚起するとともに、科学的な思考力・判断力・表現力等の育成を図った。(10月20日開催 16校 16チーム 参加人数 119名)	高校1、2年生	教育委員会事務局 高校教育課

取組名	取組概要	対象	担当課
薬物乱用防止ポスター	薬物乱用を許さない社会づくりを推進するため、中学生、高校生から薬物乱用防止の大切さを同世代に訴えるポスターを募集し、入賞作品は県内で展示するとともに、三重県ホームページに掲載した。 (応募点数：1,657点)	中学生～高校生	医療保健部 薬務感染症対策課
地球温暖化防止啓発ポスターコンクール	県民の地球温暖化防止への関心、意識を高めることを目的として、小・中学生を対象にポスターコンクールを実施した。 (応募者：小中学校 78校、1,375人)	小学生、中学生	環境生活部 地球温暖化対策課
野生生物保護啓発ポスターコンクール	ポスター制作過程を通して野生生物についての保護思想を高めるとともに、県民への普及啓発を図ることを目的として、小学生～高校生を対象にポスターコンクールを実施した。 (応募数：小中学校・高校・特別支援学校等 135校 1,497人)	小学生～高校生	農林水産部 みどり共生推進課
全日本中学生水の作文コンクール	8月1日の「水の日」および8月1日～7日の「水の週間」に合わせ、中学生が水について理解を深めるための取組の一環として「全日本中学生水の作文コンクール」を実施した。(テーマ「水について考える」、国土交通省・都道府県共催) (三重県応募総数：66作品)	中学生	地域連携部 水資源・地域プロジェクト課
土砂災害防止に関する絵画・作文	土砂災害の防止と被害の軽減を図るため、国と各都道府県では、毎年6月を「土砂災害防止月間」として、各種の活動を実施した。その活動の一環として、小中学生を対象とした絵画・作文を募集し、優秀な作品を表彰する取組により啓発に努めた。 (応募数：小中学校12校 22件)	小学生～中学生	県土整備部 防災砂防課
河川・海岸愛護ポスターの募集	川と海の役割や大切さについて理解と関心を深めるため、国と各都道府県では、毎年7月を「河川・海岸愛護月間」として、各種の活動を実施している。その活動の一環として、小中学生を対象にポスターを募集し、優秀な作品には知事賞・議長賞等の授与を行った。 (応募数：小中学校88校 688件)	小学生～中学生	県土整備部 河川課
国土と交通に関する図画コンクール	人々の生き生きした暮らしと、これを支える活力ある経済社会、日々の安全、美しい良好な環境等を実現するためのハード・ソフトの基盤形成への理解を深めてもらう活動として、国の取組に呼応し、小学生を対象に図画を募集し優秀な作品を表彰することにより啓発に努めた。 なお、その中から優秀賞1点、佳作1点を受賞した。 (応募数：県内4校 40件)	小学生	県土整備部 県土整備総務課
交通安全メッセージ運動	子どもが保護者等の身近な人と交通安全に関するメッセージ交換をすることで、子どもの交通安全意識を高め、家庭からの交通安全意識の向上を図った。 (2,334組参加)	子ども、大人(主に保護者)	環境生活部 暮らし・交通安全課
交通安全カレンダーの作成	J A 共済連三重、三重県交通安全協会等との連携により、小中学生から募集した交通安全ポスターを掲載した交通安全カレンダーを作成・配布し、子ども、保護者の交通安全意識の高揚を図った。 (平成30年度カレンダー作成部数：2,770部)	小・中学生	警察本部 交通企画課
高校生ビブリオバトル推進事業	ビブリオバトル(書評合戦)を活用した読書活動の推進(校内行事等への導入をはじめとした普及活動、ビブリオバトルの開催)により、高校生の思考力・判断力・表現力等の育成を図った。(ビブリオバトル参加校数：34校)	高校生	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課

(3) 子どもが主体的に取り組む様々な活動の支援

取組名	取組概要	対象	担当課
人権まなびの発表会	各学校で取り組まれている人権学習や人権に関する生徒の自主的な活動について、生徒が成果発表を全県規模で行った。 (実施日:11月4日、参加者数:75人(生徒25人 教職員等50人))	高等学校・特別支援学校高等部の生徒および教育関係者	教育委員会事務局 人権教育課
地区別人権学習活動交流会	県内6地区(北勢・中勢・松阪・南勢・伊賀・牟婁)において、各学校で取り組まれている、「協力」「参加」「体験」を核とした主体的・実践的な人権学習活動について、発表や意見交流を行った。 (参加者数:(6地区総計)195人(生徒94人 教職員等101人))	高等学校・特別支援学校高等部の生徒および教育関係者	教育委員会事務局 人権教育課
高校生フェスティバル	「三重県立高等学校産業教育フェア」「みえ高文祭」「三重県高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会および三重県高等学校定時制通信制生徒文化作品展」「人権まなびの発表会」「高校紹介ひろば」「高校生フォーラム」を実施し、高校生が日頃の学習や文化活動等の成果を情報発信した。 ・実施日:11月2~4日 ・開催場所:三重県総合文化センター ・参加生徒延べ約4,426人、一般来場者延べ約2,722人	子ども、大人	教育委員会事務局 高校教育課
みえの子ども「夢☆実☆現」応援プロジェクト	「将来進みたい分野を極めたい」、「地域を盛り上げる事業を起こしたい」など子どもたちが創意あふれる熱い思いをもとに、子どもたち自身が考え工夫し、自分たちの夢を具体的に実現する取組を応援する事業を実施し、総数460件の夢が届き、最終審査の結果、3件の子どもたちの夢を採択した。	小学生~高校生	子ども・福祉部 少子化対策課
みえこどもの城の運営	みえこどもの城において、児童の健康を増進し、情操を豊かにすることを目的に、児童に健全な遊びを提供した。(運営については、指定管理にて民間団体に委託している。) ・ドームシアターでの映画の上映やプラネタリウムの投影 ・プレイランドの遊具やカプラ(積み木)の設置 ・コンサート、マジックショーなどの開催 ・芸術分野や科学分野の工作メニューの提供 ・クライミングウォールの実施 ・キッズおしごと広場などの地域協働型大型イベントの実施 ・各種展示・各種イベントの実施	子ども、大人	子ども・福祉部 少子化対策課
発明くふう展	子どもたちの発明・発見への関心をいっそう高め、ものづくりの楽しさや未来の科学への夢を喚起し、子どもたちの「科学の心」を育成することを目的として、子どもたちの発明に関する作品195点(工作108点、絵画87点)を展示する「発明くふう展」を開催した。 ・開催日:9月29日(土) ・開催場所:津リージョンプラザ3階展示室 ・参加人数:344人	幼児~高校生	雇用経済部 ものづくり・イノベーション課
Jr. ロボコン2018 in 三重	ものづくりの楽しさと科学技術の素晴らしさを体験できる子どものための企画として、県内の小・中学生を対象にしたロボット製作のための合宿を実施し、最終日には成果発表会として、ロボットコンテストを開催した。 ・開催期間:8月16日~19日の3泊4日 ・開催場所:四日市少年自然の家(合宿) 四日市市橋北交流会館(成果発表会) ・参加人数:48人	小・中学生	雇用経済部 ものづくり・イノベーション課

取組名	取組概要	対象	担当課
三重県環境学習情報センター	社会見学の受入れ、各種環境講座の実施、イベント開催等を通じて、環境保全に関する気づきや実践への機会を提供した。 ・春のキッズエコフェア（4月21日・22日） ・夏のエコフェア（7月21日・22日） ・秋のキッズエコフェア（9月29日・30日） ・夏休みこども環境講座 等 （環境教育参加者数：34,101人）	子ども、大人	環境生活部 地球温暖化対策課
キッズISO14000プログラム	小学校、企業、行政が連携してキッズISO14000プログラムに取り組むことにより、家庭を巻き込んだ環境保全活動を推進した。 （参加児童数：小学校11校 360人）	小学生、大人	環境生活部 地球温暖化対策課
花育の取組（フラワーブラボーコンクール）	中日新聞社と7県1市が主催となり、学校環境の美化と豊かな情操教育、花による地域の快適な環境作りなどに役立てることを目的に、小中学校等を対象とした学校花壇コンクールを開催した。 また、花と私の作文等のコンクールや、花壇指導者講座を開催するとともに、花育推進のため、新たにフラワーブラボーコンクールに参加する小中学校等に普及指導員が栽培指導と資材の支援を行った。（学校花壇コンクール参加校数：53校 うち小学校38校、中学校14校、特別支援学校1校）	小・中学生	農林水産部 農産園芸課 教育委員会事務局 小中学校教育課
鈴鹿青少年センター主催事業「わくわくファミリーキャンプ」	親子で1泊2日のキャンプの中で創作活動や野外炊飯を通して親子の絆を深める場を提供した。 （実施日：1月12日～13日 参加者数：44人）	小中学生とその家族	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
鈴鹿青少年センター主催事業「ウィンターアドベンチャー」	鈴鹿青少年の森で冬の自然観察をしたり、自然の材料を利用した創作活動を行った。集団宿泊体験により協調性や自主性を育成する機会を提供した。 （実施日：12月9日～10日 参加者数：51人）	小学4年生～中学2年生	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
鈴鹿青少年センター主催事業「レッツ・チャレンジ2018」	異年齢の子どもたちが共同生活をしながら自然体験等を通して、自主性や協調性を学び、様々なことにチャレンジすることで自己肯定感を育む機会を提供した。 （実施日：8月22日～25日 参加者数：29人）	小学5年生～中学2年生	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
鈴鹿青少年センター主催事業「キッズチャレンジスポーツ」	スポーツ活動への導入として、様々な運動やレクリエーションを体験する機会を提供した。 （実施日：6月～3月 参加者数：612人）	小学生低学年	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
鈴鹿青少年センター主催事業「おもしろ自然科学教室」	摩訶不思議な実験、工作、観察等を通して、自分の目で見て、耳で聞いて、体で感じて学んだ。 （実施日：1月26日、2月2日、9日 参加者数：35人）	小学5年生～6年生	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
鈴鹿青少年センター主催事業「親子アウトドア体験」	親子で野外炊飯を行うとともに、防災プログラム（身の回りの物を使用した防災グッズの作成など）を実施した。 （実施日：5月27日 参加者数：48人）	家族	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
鈴鹿青少年センター主催事業「親子デイキャンプ」	親子でデイキャンプを楽しみながら、レクリエーションやキャンプファイヤーなどを行い、親子の絆を深める場を提供した。 （実施日：3月9日 参加者数：42人）	幼稚園年中～小学1年生とその家族	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課

取組名	取組概要	対象	担当課
鈴鹿青少年センター主催事業「親子でチャレンジ・飾り巻き寿司」	可能な限り三重県産の食材を利用し、親子で楽しみながら飾り巻き寿司を作り、食に関する興味を持たせ食教育を行い、コミュニケーションの場を提供した。 (実施日：3月21日 参加者数：39人)	家族	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
熊野少年自然の家主催事業「親子deキャンプ」	熊野少年自然の家をベースに大自然の中での親子で行うキャンプにより家族で野外活動をする楽しさを味わった。 (実施日：6月2日～3日 場所：熊野市金山町 熊野少年自然の家 参加者数：延べ27人)	小学生とその保護者	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
熊野少年自然の家主催事業「溪流で遊ぼう」	親子で「溪流釣り」「リバーカヤック」「川での水遊び」を行い川遊びの楽しみ方を学んだ。 (実施日：8月19日、場所：熊野市育成町（ガンガラ滝）、参加者数：28人)	小学生～大人までの親子	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
熊野少年自然の家主催事業「アウトドア親子お料理教室」	大自然の中で、親子で毎回違ったメニューのアウトドアクッキングを体験した。 (実施日：5月13日、6月23日、9月16日、10月27日、場所：少年自然の家野外炊飯設備、参加者数：延べ186人)	小学生～大人まで（小1、2は保護者同伴であること）	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
熊野少年自然の家主催事業「サイエンス講座」	空気など自然の中にあるものの力を引き出す科学の楽しさを学んだ。 (実施日：5月12日、7月14日、1月11日 参加 72人)	小学3～6年生	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
熊野少年自然の家主催事業「化石発掘体験会」	親子で発掘体験を行い出土した化石についての学習を行うことで、体験を通し自然科学を楽しく学んだ。 (実施日4月23日 場所：尾鷲市行野浦海岸 参加者数：43人)	小学生とその保護者	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
熊野少年自然の家主催事業「夜の森の観察会」	親子で蛍光灯やシートを使って灯火採集を行い、講師による採取した昆虫の解説により楽しく学んだ。 (実施日：7月14日、場所：熊野市金山町 熊野少年自然の家、御浜町神木 ふれあいの森、参加者数：29人)	小学生とその保護者	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
ブドウ栽培体験会	農業研究所伊賀農業研究室において、近隣の保育所園児を対象に、伊賀地域の特産品であるブドウ栽培の作業体験を通じ、農業や食べ物の大切さについて理解を深めてもらうことを目的として、花切り、袋かけ、収穫の3回の作業体験会を開催した。 (近隣2保育所の年長園児 約15人、5月・6月・8月の3回実施)	保育園児	農林水産部 担い手支援課 農業研究所
森林環境教育・木育の推進	森林の持つさまざまな機能や木材利用への理解を深めるため、学校等における出前授業の実施や、小学生などが森林等を活用して取り組んだ体験学習について発表する場「みえ子ども森の学びサミット」の開催、子どもが参加できる木や森林の活動体験講座「森の学校」の開催、木育を普及する木製遊具イベント「ミエトイ・キャラバン」の展開、森林環境教育・木育の指導者養成等に取り組んだ。 (出前授業 11回実施、「みえ子ども森の学びサミット」実施日：12月1日 場所：みえこどもの城、「森の学校」27回実施、「ミエトイ・キャラバン」11回実施、指導者養成講座 6回実施)	子ども(小学生が主)、大人	農林水産部 みどり共生推進課

(4) 子どもの育ちを支える人材育成、環境整備

取組名	取組概要	対象	担当課
預かり保育の推進	私立幼稚園において、地域の実態や保護者のニーズに応じ、正規の教育時間開始前や終了後、および休業日に教育活動を実施するための人件費に対し助成を行った。 (助成私立幼稚園数：20園 平成30年度交付決定数)	学校法人	子ども・福祉部 少子化対策課
放課後子ども教室の推進	放課後児童対策の一つとして、放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用して、活動場所を設け地域の方々の参画を得て文化スポーツ学習活動などの取組を支援し、子どもが地域社会の中で健やかに育まれる居場所を確保した。 (実施地域：19市町、教室数：73教室 平成30年度補助申請数)	市町	子ども・福祉部 少子化対策課
放課後児童健全育成事業の推進	放課後児童対策事業費補助金を支給する等、市町が行う放課後児童クラブ施策を支援した。 (実施地域：29市町、クラブ数：408クラブ 平成30年度交付決定数)	市町	子ども・福祉部 少子化対策課
保育士に対する研修の実施	新任保育士の資質の向上や就業継続支援を図るための研修、人権問題についての正しい知識を習得するための研修等を実施した。 (新任保育士就業継続研修：180人、人権保育専門講座：11市町、25講座)	保育士等	子ども・福祉部 少子化対策課
特別保育の促進	市町が実施する延長保育(私立160か所)、病児・病後児保育(16か所)など多様な保育サービスを支援した。(平成30年度交付決定数)	市町	子ども・福祉部 少子化対策課
幼稚園教育研究協議会の開催	教員等の指導力を高め、本県における幼稚園教育の振興・充実を図るため、県内の国公立幼稚園等関係者、市町教育委員会関係者を対象に、幼児理解に基づいた教育課程等、幼稚園教育に関する内容等について専門的な講義を行うことにより、幼稚園教育要領の周知を行った。 (参加者数：255人)	幼稚園教諭等	教育委員会事務局 小中学校教育課
不登校対策事業	いじめや暴力行為等の問題行動や不登校等、児童生徒の課題への対応に向け、子どもたちの良好な人間関係を築く力や、自主的な態度を育成するため、小中学校3校を推進校に指定し、SST(ソーシャルスキル・トレーニング)を実施した。また、新たな不登校を生まないため、伊勢市全小中学校において、児童生徒が主体となった授業や行事を実施して仲間づくりや居場所づくりに取り組む魅力ある学校づくりを進め、その取組を県内に普及した。さらに、生徒指導担当者を対象に組織的な指導体制構築のための研修を校種別に実施した。加えて、不登校を支援する団体等からなるみえ不登校支援ネットワークの活動を通して相互に連携を図るほか、不登校の子どもたちを支援する教育支援センター(適応指導教室)の指導員を対象に事例検討会を行い、資質向上を図った。	児童生徒 教職員 フリースクール 教育支援センター	教育委員会事務局 生徒指導課
スクールカウンセラー等活用事業	いじめや暴力行為等の問題行動、不登校や貧困など多様な課題に対応するため、スクールカウンセラー(SC)を公立全中学校区に配置し、配置時間の弾力的な運用を行うとともに、スクールソーシャルワーカー(SSW)の派遣に加えて、県立高校7校を拠点にSSWが近隣の中学校区を巡回して配置のSCとチームでの支援を行うなど、教育相談の充実と関係機関との連携を進めた。 【SCの配置校：全154中学校区(小学校317校、中学校153校、義務教育学校1校、高等学校36校)】 【SSWの配置：11人を県教育委員会に配置】	児童生徒 教職員 保護者	教育委員会事務局 生徒指導課
みえの親スマイルワークの活用	教育委員会や三重県PTA安全互助会と連携し、親の役割や自身の成長について、気づき、学び合う機会を提供する参加型のプログラムである「みえの親スマイルワーク」を活用し、保健センターや子育て支援センター、PTA等で、子育て中の親を対象にワークシートのテーマに基づき、子育ての思いや悩み、不安などを語り合い、共感するなどの機会を提供した。(連携実施回数6回)	大人	子ども・福祉部 少子化対策課
子育て家庭応援クーポン	地域の商店や企業の協賛による、18歳未満の子育て世帯及び妊娠中の世帯に対して割引やサービスの提供を働きかけた。(協賛企業数：1,763店舗 平成31年3月31日現在)	子ども、 大人	子ども・福祉部 少子化対策課

取組名	取組概要	対象	担当課
子育て・子育てマイスター養成講座や孫育て講座の実施	地域において多くの子育て支援の場や子育て家庭を支えることができる人材の養成を図るため、市町のニーズに応じて、必要とされる一定の知識や専門的なスキルを身に付ける子育て・子育てマイスター養成講座や子育て期を終えた世代を対象とした孫育て講座を市町と連携して実施した。受講者は、中学生あかちゃんふれあい体験のサポートや託児支援などに関わり、各地域で活躍している。（平成30年度の講座実施市町数：のべ6市町、養成者数：のべ121人）	大人	子ども・福祉部 少子化対策課
みえ次世代育成応援ネットワークの活動促進	社会全体で子どもや子育て家庭を支える地域を実現するために、地域の担い手である企業や子育て支援団体等が参画し活動している「みえ次世代育成応援ネットワーク」の会員拡大および活動促進を図った。（会員数：1,570 平成31年3月31日現在）	大人	子ども・福祉部 少子化対策課
子育て支援活動拠点の設置・運営	子どもの育ちを応援する「みえの子ども応援プロジェクト」の活動拠点として、商業施設に「よっかいちステーション」を設置し、毎週火曜日と第4土、日曜日に、企業や団体等がボランティアとして、おもちゃの病院、太鼓体験、工作など、親子がふれあいながら楽しむ機会を提供した。（来場者数 15,200人）	子ども、 大人	子ども・福祉部 少子化対策課
子育て応援！わくわくフェスタの開催	企業、地域の団体などの多様な主体が参加し、子ども向けの体験や遊び、子育て情報の提供、日頃の活動発表などを多彩に行うことにより、県民にさまざまな情報を発信し、「子育て・次世代育成支援」の機運醸成を図るとともに、互いに連携・協働・交流し、子育てを応援する地域づくりを一層推進する催しを開催した。（開催日：平成30年11月23日、場所：国営木曾三川公園カルチャービレッジ輪中ドーム（桑名市）、来場者数：約4,000人）	子ども、 大人	子ども・福祉部 少子化対策課
高校生地域人材育成事業	紀南高校において、地域の主要産業であるみかんについて学ぶとともに、摘果作業などの実習を行う「地域産業とみかん」のカリキュラム立ち上げを支援した。また、尾鷲高校の生徒が「地域課題の解決」をテーマとして、フィールドワークやグループディスカッションを行うことで地域への愛着を高める「まちいく」の取組を支援した。（開催回数：計4回）	高校生	地域連携部 南部地域活性化局 南部地域活性化推進課
県生涯学習センター講座	市町行政や関連施設等と連携しながら、社会の要請に対応できる地域指導者の人材育成講座等を実施した。テーマは市町のニーズに基づき決定した。 子どもの読書活動の推進をテーマにした講座を実施 会場 木曾岬町役場 1月13日 51人、 1月16日 17人	大人（読書ボランティア、 幼保職員等）	環境生活部 文化振興課
みえ子ども医療ダイヤル（#8000）	子どもの急な病気や事故、薬に関する心配について、医療関係の専門職員が電話相談に応じた。 ・相談時間：毎日19時30分～翌朝8時00分 ・相談件数：10,859件	大人	医療保健部 地域医療推進課
「女性が働きやすい医療機関」認証制度	子育て時の当直免除など女性の医療従事者が働きやすい環境づくりの促進を目的に、女性が働きやすい勤務環境の改善に積極的に取り組んでいる医療機関を認証するとともに、広く周知を図った。（平成30年度認証医療機関数10医療機関、認証式：平成31年3月19日）	医療機関	医療保健部 地域医療推進課
いじめ電話相談	子ども、保護者等を対象にいじめ電話相談を実施した。（相談時間：毎日24時間（365日）） ・いじめ電話相談件数 215件	子ども 保護者等	教育委員会事務局 研修企画・支援課
教育相談	子ども、保護者、教職員を対象にプレイセラピーやカウンセリング等の面接相談、電話相談を実施した。（相談時間：年末年始祝日を除く月水金9時～21時、火木9時～17時） ・電話相談件数 3,355件 ・面接相談件数 6,333件	子ども 保護者 教職員	教育委員会事務局 研修企画・支援課
体罰に関する電話相談	子ども、保護者等を対象に体罰に関する電話相談を実施した。（相談時間：年末年始祝日を除く月水金9時～21時、火木9時～17時） ・体罰に関する電話相談件数 11件（2月末現在）	子ども 保護者等	教育委員会事務局 研修企画・支援課

取組名	取組概要	対象	担当課
子ども専用電話相談	子どもからの相談に対応する窓口として、子ども専用電話相談「子どもほっとダイヤル」を運営し、悩みを抱えた子どもの声を受け止め、子どもとともに状況や気持ちを整理しながら継続して相談を受け、子どもが自らの力を回復して解決していくことができるよう手助けを行った。虐待やいじめなど子ども自身の力だけでは解決できないような場合には、児童相談所や教育委員会等関係機関と連携して対応した。 <ul style="list-style-type: none"> ・フリーダイヤル ・相談時間：年末年始を除く毎日13時～21時 ・相談件数：848件(平成30年4月1日～平成31年3月31日) 	子ども	子ども・福祉部 少子化対策課
妊娠レスキューダイヤルの設置	若年層の望まない妊娠で周囲に相談できない等子どもたちの悩みに対する電話相談窓口を運営するとともに、医療・保健・教育・福祉等関係機関が連携し早期からサポートすることで児童虐待の未然防止に努めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・相談時間：毎週 月・水 15:00～18:00、土 9:00～12:00 (年末年始、祝日を除く) ・相談件数：85件(H30年度) 	若年層 (10歳代)	子ども・福祉部 子育て支援課
思春期保健指導セミナー	中高生の性や望まない妊娠等、思春期の子どもたちや家族が抱える性にまつわる問題を関係者が共通理解し、各々の機関で実践に活かす手法を学ぶ目的でセミナーを開催した。 (開催日：平成31年2月10日、場所：三重県医師会館、参加者数：192人)	大人(医療関係者・教育関係者、保健関係者等)	子ども・福祉部 子育て支援課
給食施設巡回指導	給食を実施している保育所等児童福祉施設、私立幼稚園及び学校に栄養指導員が巡回し、管理栄養士、栄養士の配置及び適切な栄養管理等の実施について指導助言を行うとともに、食育の視点も捉えた指導を実施した。 (巡回指導施設数：123施設)	施設管理者および給食従事者	医療保健部 健康づくり課
若年層の自殺対策推進体制構築事業	子どもの自己肯定感を高めるとともに、ストレスとの付き合い方や問題に遭遇した時、周囲に助けを求めることが大切であることを伝え、また、相談しやすい環境づくりや精神疾患への早期支援を地域の実情に応じて取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・専門相談窓口の設置 新規相談件数 176件 ・アウトリーチ型支援 8件 ・教職員等を対象とした研修：6回 229名受講 ・生徒を対象とした自殺予防の授業：12校 12回 2,821名受講 ・保健医療・教育関係者等を対象とした研修：1回 84名受講 ・関係機関による支援ネットワーク会議への参加助言等：10回 	主に中高生およびその保護者・学校関係者	医療保健部 健康づくり課
SNSを活用した相談	子どもたちが安心して学校生活を送ることができるよう、いじめをはじめとするさまざまな悩みを抱える子どもたちにとって、より相談しやすい環境を充実させるため、SNSを活用した相談を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・開設期間：平成30年5月14日～平成31年3月31日まで ・相談時間：平日午後5時から午後9時まで ・対象者：県内全ての中学生、高校生 ・相談件数：1,005件 	子ども	教育委員会事務局 研修企画・支援課
子どもの心サポート事業	教育相談に関する研修会を実施し、思春期の子どもたちの悩みや不安に対する理解と適切な支援が行えるよう、教職員の資質向上を図るとともに、困難なケース等についてはカウンセリングや心理療法等の面接相談を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・思春期の子どもたちの心を理解する研修講座数 5講座 ・思春期の子どもに係る面接相談件数 2,740件 教育相談に関する研修会を実施し、児童生徒の心の問題に対する理解と適切な支援が行えるよう、教職員の資質向上を図った。 <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談に関する研修講座数 22講座 ・延べ受講者数 771人 	子ども 保護者 教職員	教育委員会事務局 研修企画・支援課

取組名	取組概要	対象	担当課
生活困窮家庭の子どもの学習支援事業	生活困窮者自立支援法に基づき、県所管地域（多気町を除く郡部）の生活困窮家庭（生活保護受給世帯を含む）の中学生を対象に、学習習慣の確立、志望校への進学支援などの学習支援を行った。また、高校生をはじめ、高校を中退した人、中学校卒業後進学していない人（「高校生世代」という。）を対象に、進学、就労に向けた進路選択や再就学等の相談支援等に取り組んだ。 ・支援者数：高校生1人、 中学生10人 （うち中学3年生 4人のうち3人が高校進学）	中学生 高校生世代	子ども・福祉部 地域福祉課
人権に関わる相談員スキルアップ講座等	人権の視点での県内各機関の相談員等の資質向上を図るため、人権に関わる相談員等スキルアップ講座を開催した。 ・講座「生活困窮者を取りまく現状と課題」ほか1講座 （取組数：2講座、参加者数：143人）	大人（人権に関わる相談員）	環境生活部 人権センター
日本語指導の充実及びJSLカリキュラムの実践研究の推進	外国人生徒支援専門員（2人）を活用し、外国人生徒が社会的自立を果たし、社会の一員として活躍できるよう、課外授業等による適応指導や進路相談等を実施するとともに、日本語で学ぶ力の育成をめざしたカリキュラム（JSLカリキュラム）に係る研究成果の普及・定着を図った。また、日本語指導が必要な外国人生徒等の学習指導に係る情報について、調査票を活用して、中学校から高等学校へ必要な情報の引継ぎを行う取組を進めた。 ・外国人生徒支援専門員の配置 2人 ・調査票を活用した中学校から高等学校への情報の引継ぎ 7市で実施	高校生、 教員	教育委員会事務局 高校教育課
多文化共生社会の担い手をつくる外国人児童生徒教育推進事業	日本語指導が必要な外国人児童生徒が、将来、社会の一員として自ら能力を発揮し活躍できるよう、外国人児童生徒の在籍が多い拠点校等のノウハウを生かした受入体制整備を進めるとともに、外国人児童生徒巡回相談員（12人）の派遣等による日本語指導、学校生活への適応指導の充実、教科指導型日本語指導（JSLカリキュラム）の実践事例の普及を図った。	小中学生、 教員	教育委員会事務局 小中学校教育課
教職員研修	主体的・対話的で深い学びの充実を図る教員の実践的指導力の向上をめざす研修を実施した。また、経験年数や職種に応じた悉皆研修、教職経験の異なる教員の相互研さんによる授業実践研修等を実施し、教員の授業力や専門性の向上を図った。さらに、学校自らがよりよい学校づくりを進めていくため、学校マネジメント力の向上を図る研修を、校長をはじめ教員のライフステージに応じて実施した。 ・延べ講座数 505講座 ・延べ受講者数 43,763人	教職員	教育委員会事務局 研修企画・支援課 研修推進課
ワークシート作成（全国学調、みえスタディ・チェック、ワークシート（3点セット）活用支援事業）	学習内容の理解と定着を図り、子どもたちが「できた」「わかった」という達成感を味わい、主体的な学びにつなげられるよう、課題に対応したワークシートを「授業改善サイクル支援ネット」に掲載（11月、2月）するとともに、学習内容の定着状況が確認できるよう、これまでの全国学力・学習状況調査で経年的に課題が見られる問題を中心に、当該学年で身に付けておくべき基礎からの標準的な問題で構成したワークシート集（学Vivaセット）を全小中学校に提供（6月、11月、2月）し、授業や補充学習、家庭学習等での活用を促進した。また、1月に実施した、みえスタディ・チェックでは、これまで出題した問題等を活用して、同一、同趣旨の問題で作成し、4月実施からの定着状況の確認や経年での比較検証を行った。 ・ワークシート掲載数H30:161本（総掲載数：2196本）	小中学校 教職員	教育委員会事務局 学力向上推進PT

取組名	取組概要	対象	担当課
みえ子どもの元気アップ体力向上推進事業	子どもたちが運動の楽しさや喜びを知り、運動することが好きになるような体育の授業をめざして、授業の工夫や改善を進め、さらに、学校・家庭・地域が主体となって子どもたちが運動する機会を増やす取組とともに、生活習慣の改善を総合的に推進し、体力向上に向けた取組を継続的に進める。	就学前・小学校・中学校・高等学校の教員および児童生徒、幼児と保護者、市町等教育委員会等	教育委員会事務局 保健体育課
元気アップブロック別協議会	「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における三重県の結果から、体力向上の取組成果と課題について情報を共有し、各学校が平成31年度の目標や計画を設定する「みえ子どもの元気アップシート」の作成取組について説明した。また、本県の不得意種目を克服するため、各校の取組事例等、グループ協議による好事例を共有する取組を行った。(2月県内8会場512人参加)	小学校・中学校・高等学校の教員	教育委員会事務局 保健体育課
元気アップ研修会	幼児期の運動習慣確立および児童生徒が自主的・自発的に運動に親しむことにより、生涯にわたる豊かなスポーツライフの基礎を培うことができるよう、運動遊びや体育・保健体育の授業の工夫改善を中心に、学習課題に関する研究協議、講義、実技講習を行い、幼稚園教員・保育士等および体育・保健体育科教員の指導力向上を図った。 ・就学前元気アップ研修会 1会場開催(29人) ・小学校元気アップ研修会 9会場開催(372人) ・中高等学校元気アップ研修会 3会場開催(166人)	就学前・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教員	教育委員会事務局 保健体育課
運動部活動サポーター派遣事業	中・高等学校の運動部活動に、地域のスポーツ指導者を外部指導者として派遣し、運動部活動の取組を充実させるとともに、外部指導者を対象に指導上の配慮事項や教員との連携の在り方に関する知識を深める研修会を開催し、資質及び指導力の向上を図った。 (中学校5校5人、県立高等学校43校に対し45人を派遣)	地域のスポーツ指導者	教育委員会事務局 保健体育課
運動部活動指導員配置促進事業	中・高等学校の運動部活動に、教育に対する理解及び専門的指導力を備えた地域の指導者を、運動部活動指導員として配置することで、運動部活動の充実・活性化を図った。 (中学校10校に対し13人、県立高等学校5校5人を派遣)	地域のスポーツ指導者	教育委員会事務局 保健体育課
運動部活動指導者スキルアップ研修会	運動部活動が適切に展開されるよう、中学校および高等学校等の指導者を対象に、指導力の向上を図る研修会を開催した。 ・トレーニング・コンディショニング講座(32人参加) ・運動部活動マネジメント研修講座(1回講座・43人参加)	中学校・高等学校・特別支援学校の教員	教育委員会事務局 保健体育課
武道等指導充実・資質向上支援事業	中学校における武道・ダンスの必修化に伴う課題を解決するため、安全に配慮した指導の在り方等に関する講習会を開催し、教員等の指導力の向上を図った。 また、専門性を有する地域の武道・ダンス指導者を外部指導者として中学校に派遣することにより、保健体育科における武道・ダンス授業の充実を図った。 (中学校20校に対し17人(実人数))	地域のスポーツ指導者	教育委員会事務局 保健体育課
子ども読書活動推進会議	子どもの読書活動を推進するため、有識者を交え、子どもの読書活動推進にかかる具体的方策の企画立案、分析、評価等を行った。	三重県子ども読書活動推進会議委員	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
地域学校協働活動推進のためのコーディネーター養成講座	学校支援地域本部関係者、コミュニティスクール関係者、教職員等を対象に地域が学校と連携・協働して地域を創生する「地域・学校協働活動」の中核を担う地域学校協働活動推進のためのコーディネーターの育成を図るため養成講座を実施した。(3年間で9回計画：本年1年次、9月25日、11月22日、1月17日：延べ参加者数249人)	学校支援地域本部関係者、コミュニティスクール関係者、教職員等	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課

取組名	取組概要	対象	担当課
読書ボランティア研修会	読書ボランティアとして活動する方を対象に読書ボランティアとしての知識、技術のスキルアップや資質向上のための研修会や読み聞かせの実践的な研修会を開催しました。(開催日：8月28日、3月6日、延べ参加者数182人)	読書ボランティア	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
少年相談110番	少年や保護者等から家庭問題、交友問題、学校問題、犯罪被害等の悩みや困り事の相談に応じ、必要な指導・助言を行った。 ・フリーダイヤル ・相談時間：祝祭日、年末年始を除く月から金曜日9時から17時 ・(平成30年度、相談件数：15件)	子ども、保護者、教職員等	警察本部 少年課
三重若樫少年サポートネットワークの運用	教育、医療、福祉、更生に携わる機関・団体等により構成する「三重若樫少年サポートネットワーク」会議を開催し、少年の健全育成に関する情報交換を実施した。 (開催日：平成30年11月12日、参加者数：関係機関・団体の代表、関係者等35人)	大人	警察本部 少年課
「三重県版コネクションズ」による非行少年の立ち直し支援等	非行等の問題を抱え社会から孤立した少年に対し、少年警察協働員、大学生ボランティア等の少年警察ボランティアや関係機関・団体等と連携し、農業体験や社会参加活動等の立ち直し支援に取り組んだ。 (平成23年3月から平成31年3月末までの間、支援対象少年：152人、支援回数：2,891回)	非行少年 被害少年	警察本部 少年課
インターネット上の違法・有害情報から少年を守る対策	インターネット利用に起因する児童の犯罪被害を防止するため、携帯電話販売店に対し、スマートフォン等販売時に使用者が子どもである場合には保護者に対するフィルタリングの説明・推奨等を徹底するよう要請した。 (平成30年度、携帯電話販売店：延べ93店舗) 非行防止教室等を通じ、児童・生徒、保護者等に対してインターネット利用に潜む危険性やフィルタリングの必要性、家庭でのルールづくり等の啓発を実施した。 (平成30年度インターネットに係る非行防止教室実施回数延べ173回、参加者数：延べ21,450人)	携帯電話事業者 小学生～高校生、 専門学校生、保護者および教員	警察本部 少年課
学校薬剤師による薬物乱用防止教室「くすりの正しい使い方教室」	覚醒剤などの違法薬物の乱用だけでなく、医薬品を医療目的から逸脱した用量や用法などの医療目的以外で使用することも薬物乱用であるため、一般用医薬品などのくすりの服用方法や副作用などくすりの正しい使い方について、学校薬剤師が薬物乱用防止教育の一環として薬物乱用防止教室を実施した。 (実施校数：138校(3月26日現在))	小学生 (高学年)～高校生	医療保健部 薬務感染症対策課
薬物乱用防止教育認定講師等による薬物乱用防止教室「ダメ。ゼッタイ教室」	ライオンズクラブ国際協会334-B地区と公益財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センターが共同で認定した薬物乱用防止教育認定講師等が実施した。 啓発用ビデオやCD-ROMを活用した薬物乱用防止教育と地域のおじさんやおばさんとして、人生の豊富な経験を生かし「語り部」として、生き方「ライフスキル」を青少年に伝えた。 (実施校数：110校(3月31日現在))	小学生～高校生	医療保健部 薬務感染症対策課
インターネット社会を生き抜く力の育成事業	子どもたちのスマートフォンを含む携帯電話やインターネットの利用に関する知識や理解等の情報モラル教育を推進する「みえネットスキルアップサポート」を、60校(小学校40校、中学校20校)において、実施した。さらに、ネット上での不適切な書き込みの検索、監視等(ネットパトロール)を専門業者に委託し、長期休業明け前後等に実施し児童生徒への指導につなげた。また、保護者への啓発を目的に、県内各地で保護者を対象としたネット啓発講座を小中学校・特別支援学校で開催(29講座)した。	児童生徒 教職員 保護者	教育委員会事務局 生徒指導課
青少年健全育成協力店運動	「三重県青少年健全育成条例」に基づき、関係機関と連携して子どもを有害環境から保護する取組を進めるとともに、立入調査を実施した。 (子どもの利用の多い店舗のうち青少年健全育成協力店の割合：99.2%(平成31年3月末現在))	大人	子ども・福祉部 少子化対策課

取組名	取組概要	対象	担当課
子ども農山漁村ふるさと体験推進事業	農山漁村でのふるさと体験活動を通じて、小学生～大学生に学ぶ意欲や自立心を育み、その力強い成長を支えるため、受け入れ地域の体制整備や体験指導者の育成を行った。 (受入地域15地区)	農山漁村地域の大人	農林水産部 農山漁村づくり課
防犯ボランティア団体等との連携による子ども見守り活動等の推進	「平成30年度防犯ボランティア団体物品支援事業」により、防犯ボランティア団体に対して防犯活動用物品の配布等の支援を行った。また、平成30年6月関係閣僚会議において決定された「登下校防犯プラン」を受け、学校等と連携した通学路点検の実施や、事業所等が通学路等において子どもの見守りを平素の活動を通じて行う「ながら見守り」の実施を働き掛けたほか、同事業所に対する三重県警察認定「子ども安全・安心の店」の認定など、子どもの安全を確保する活動の活性化を図った。 (平成30年度、防犯ボランティア団体物品支援事業対象団体数：2団体、子ども安全・安心の店認定数：28事業所)	防犯ボランティア団体のほか、ボランティア活動に従事する事業所等	警察本部 生活安全企画課
働きやすい職場づくり事業	誰もが働きやすい職場づくりを目的に、残業時間の削減や休暇の取得促進、育児や介護をしながら働き続けられる職場づくりなどに積極的に取り組む企業等を登録するとともに、特に優れた実績を有する企業等を表彰し、併せて優れた取組事例を広く紹介した。 (H30年度登録数：44社 表彰：4社、表彰式：平成30年12月18日)	企業等	雇用経済部 雇用対策課
働き方改革推進事業	働き方を見直し、企業におけるワーク・ライフ・バランスを促進するため、セミナーの開催や優良事例の紹介などによる普及・啓発を行った。 【セミナー等の開催】 キックオフセミナー：平成30年6月19日（津市）168名参加 業界向けセミナー：平成30年8月10日（津市）72名参加 業界向けセミナー：平成30年8月20日（津市）23名参加 働き方改革取組中間成果共有会：平成30年11月15日（津市）9社参加 みえの働き方シンポジウム：平成31年2月4日（津市）190名参加	企業等	雇用経済部 雇用対策課
交通安全指導者講習会	小学校、中学校、高等学校の教員を対象に、児童・生徒に対する自転車の乗り方等の交通安全指導を行う指導者講習会を実施した。（開催日：10月2日、10月9日 参加者数：32人）	大人（教員）	環境生活部 くらし・交通安全課